

# 校長室だより

令和元年度 第5号

2020年1月30日発行

江津市立江東中学校

校長 大野 淑子

## 三学期を迎えて

令和2年を迎え、8日から三学期がスタートしました。

その8日未明、すでに県内全域に暴風警報が出ており、生徒の安全な登校が大変心配されました。江津東小学校・江東中学校は、保護者さんへの配信メールで、安全な登校を第一とし、状況によっては登校が遅れてもよいとする旨伝えましたが、生徒たちは登校時刻までにピタリ、安全に登校して来ました。安心するとともに、始業式では、災害時の「自助・共助・公助」の話をしました。

特にその中の「自助」。“自分の命は自分で守る”という大原則、その姿に他の人も危機感をもち危険回避や避難を促す“他人の避難行動促進”、そして“普段からの約束や信頼関係”が「自助」の行動に迷ったり遅れたりすることを防ぐ、と。もちろん今回の暴風警報は大きな被害が出る災害にならずほっとしたところですが、機会をとらえ、「防災教育」も進めていきたいと改めて感じた次第です。

## 江東中人権集会(1/17)

江東中学校では昨年度の人権集会後に、生徒一人一人が〈行動宣言〉を行いました。1年が立ち2、3年生は学年をまたいだこの1年の、1年生は入学してからの言動を振り返りました。そして



〈10の縦割り班で方策を検討する。〉

今年の生徒会テーマでもある〈つながる〉について、できていること、できていないこと、できていないことをできるようにするにはどうしたらよいか等、学級で話し合いました。それを踏まえて臨んだ全校での人権集会では、互いの学年の様子を知り合うとともに、今度は1～3年の縦割り班で改善に向けてくさらに深くつながる〉ための方策を検討していきました。付箋を持ち、みんなが意見を出し合い、本当に何を大切にしていきたいか重点化し、最後に一つの言葉に集約してく…。



3年生がリードし、10班それぞれの意見が、全体会で説得力をもって発表されました。

〈↑ 全体会で班の意見を説明する3年生〉

今回生徒たちは、自分たちの言動や生活を振り返り、評価し、意見を述べ合う中で、“互いを尊重し安心して楽しく過ごせる学校生活”を作っていくための、自分たちのよりよい在り方を考えていくことができました。またその中で、3年生のリーダーとしての姿、和やかな雰囲気の中でだれもが自分の気持ちや意見を伝えている姿に、改めて生徒たちの成長を感じた人権集会でした。

人権尊重の理念は、本校の教育活動全ての基盤であり、私たちが生きる地域、社会、世の中でも最大限に尊重されなければならないものだと考えます。本校ではこの人権集会に先立ち、人権講演会を開催し、「命」や「共生・協働社会」について理解や心情を深める機会をもちました。(裏面をご覧ください。) 学校、地域、社会…、いろいろな社会を構成する一員として、他者理解をすすめ、よりよい関係の形成を促していく取組を、今後も積極的に進めていきたいと思っています。

## 女鹿田 陽さん 講演会

2020年  
1月15日  
江東中

### 演題 「心臓の病気になってわかったこと、伝えたいこと」

30代で重い心臓病を患い、心臓移植を受けなければ生きられないと宣告された。移植が決まるまでは、ショルダーバック型の補助人工心臓を装着しての生活を続けられ、2年半後、心臓移植が成功して、健康な人と変わらない生活ができるようになった。現在、臓器移植への理解と、健常者も障がい者も同じように接することができる共生・協働社会の実現のために、テレワーク(遠隔地・在宅で仕事をする事)等の実践をしておられる。

14:00~15:30

(江東中1~3年、教職員、保護者、一般の方の約70名で話を聞きました)

【生徒の感想から】

今まで私は、臓器移植のことについてあまり考えていなかったけど、お話を聞いて、臓器の移植を受けて助かる人がいるなら、臓器提供をしてもいいかなと思いました。(中1 女子)

もし、私が重い病気にかかってしまったら、助けてもらいたいし、他の人が助けを求めていたら、自分が助けてあげたいです。ドナーがたくさんいるのが当たり前の未来を、私たちの手で作りたいです。私はぜひドナー登録したいです。(中2 女子)

女鹿田さんの話を聞きながら、日々幸せに生きていられることがどれだけ大切なことなのかを感じました。そして、自分は今からどう生きていけばいいのかを深く考えさせられました。落ち込んでいる人や悩んでいる人の話を聞いてあげたいです。(中3 女子)

心臓の病気にかかると、生活がとても大変になると思いました。私は、誰かが心臓などの思い病気にかかったら何とかして助けてあげたい気持ちになりました。今回「今生きているありがたみ」を知り、仲間とともに助け合える人生を送りたいと思いました。(中1 女子)

自分も、いつか急に重い病気になるかもしれないということを考えました。人のためにも思って臓器提供を考える人、臓器をもらったことで元気に過ごしている人がいるということを忘れないでおこうと思います。(中2 男子)

実際に臓器移植をされた方のお話を聞いていろいろ考えさせられました。自分が移植しなければ生きられないといわれたら、誰かに助けてもらいたいし、自分も誰かを助けてあげたい気持ちになりました。社会には、障がいを持った人など、様々な生き方をしている人がいます。そのことを知り、理解していきたいです。(3年女子)

僕は今日、命の大切さについて学びました。体の中のさまざまな臓器が、移植でき、人を生かすなんて、医学は進歩していると思いました。(中1 男子)

僕が印象に残ったのは、自分の今の命はドナー(臓器提供者)との二人三脚だ、という言葉です。女鹿田さんが命を大切に生きておられることが感じられたからです。(中3 男子)

臓器移植をされた方が、その後不安や不便を感じなくてすむような社会、周りの人が自然と声をかけられるような社会を、若い僕たちが作っていかなくては、と思いました。(中3 男子)



意思表示が、移植医療の希望になる。  
グリーンリボンキャンペーン

